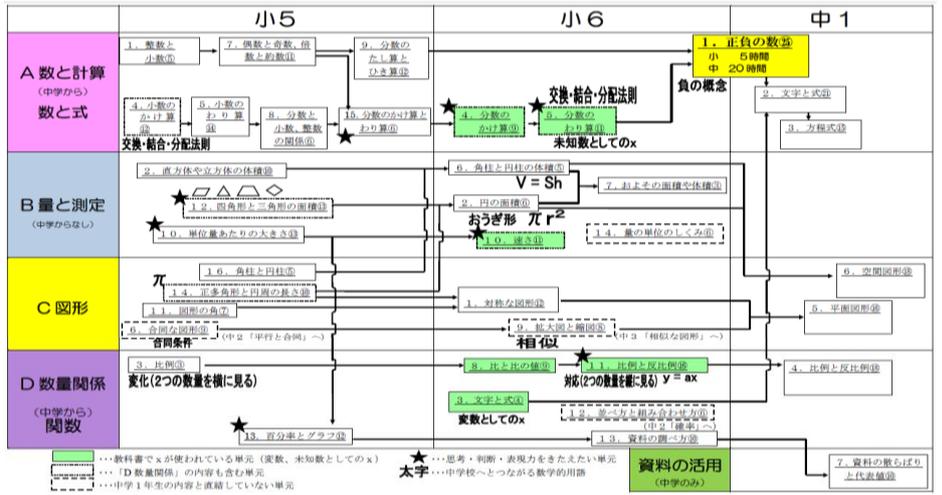


学力向上研究部の取組 I 算数・数学科

(1) 取組

◎算数・数学科領域別系統表の作成

- 小学校と中学校の重複する学習内容をあげ、教員自身につながるの意識をもたせる。**(小学校の単元に、中学校の指導内容を明記)**
- 家庭配布用を作成し、配布することで、家庭への呼びかけと児童生徒自身にもつながりを意識させる。



◎中学校へスムーズに接続するための年間指導計画の作成・乗り入れ授業

○算数から数学への円滑な意識改革を目指して、中学1年生最初の単元「正負の数」の5時間分を小学6年生の最後の学習内容へ移行し、教育課程を編成した。

- ◆小学6年生…3学期単元「算数卒業旅行」の計画を変更して5時間分を数学「正負の数」に充てる。(3月第1週～第2週に実施)
- ◇中学1年生…1学期単元「正負の数」第1節の5時間分を、同単元内の各節の復習の時間に充てる。



- 教科書などがいないため、パワーポイントによる教材開発をした。
- 中学校のカリキュラムを小学校で行うことが初めての取組であったため、5時間分の指導案(略案)を作成し、小学校担任(T1)、小学校少人数指導教員(T2)、中学校数学科教員(T3)と役割分担を決めて授業を行った。

問題「-」はどんなことを表している?

「正負の数」1時間目 資料

課題「-」の意味について考えよう

「正負の数」3・4時間目 資料

課題1 負の数をふくめた数直線をつくってみよう

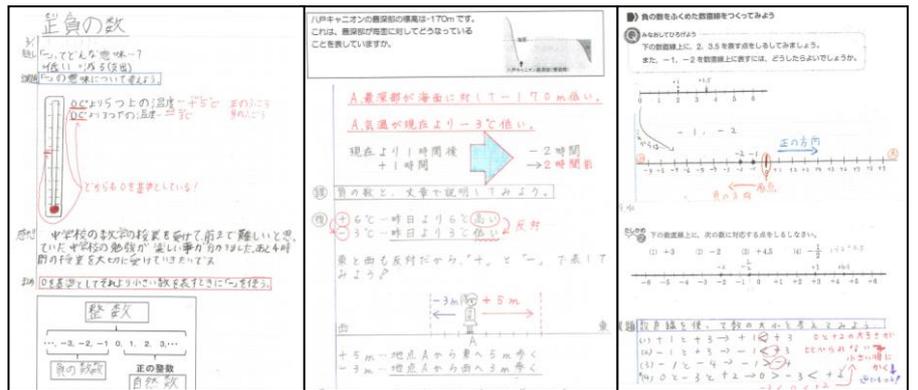
「正負の数」3・4時間目 資料

問題 下の数直線で、原点との距離が点Aと等しい点を見つけ、その点に対応する数を求めましょう。

きよりが5 きよりが5
きより=絶対値

◎算数ノートのつながり

「正負の数」の内容を小学校で行う際、数学の学習に特化したノートを用意し、**そのノートを中学校へ入学してからも引き続き使用する**ことで、小学6年生で学習した「正負の数」の学習内容が途切れることなく、中学校での数学の授業に生かされた。



(2) 成果

- ・小学6年生のうちから中学校の内容を実際に中学校教員から教わることにより、児童の不安が解消され、気持ちの面のギャップもなくなり、**中学校に入学してからも自信をもって授業に取り組む**ことができた。(右記グラフ参照)
- ・小学校で実施した「正負の数」では、**担任(T1)、少人数担当(T2)、中学校教員(T3)**で役割分担をして授業展開することで、きめ細やかな指導を行うことができた。

小学校で「正負の数」を勉強してきたから、実際に受けた中学校の数学「正負の数」の授業はどうだったか。



＜生徒の主な感想＞
数学に対する不安が減った。小学校での学習が印象深く、復習のような形で分りやすかった。

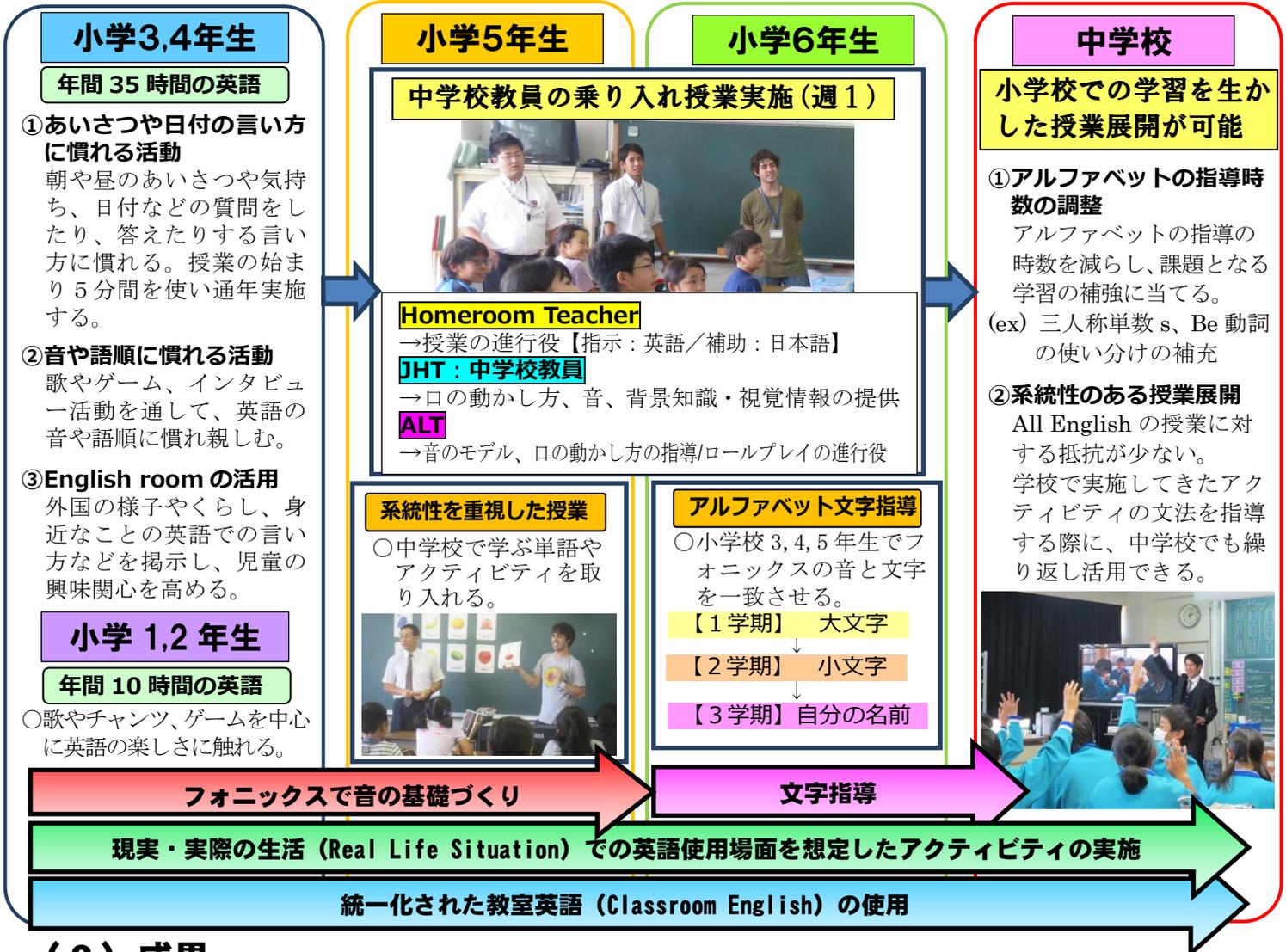
(3) 課題

- ・平野小学校以外の小学校から平野中学校へ進学してくる、新入生への指導計画の作成と実施。
- ・県学力学習状況調査の分析から見てきた、小学4年生から中学3年生の苦手分野に対する指導方法の改善。

学力向上研究部の取組Ⅱ 外国語活動・英語科

(1) 取組

◎発達段階をつなげる外国語指導



(2) 成果

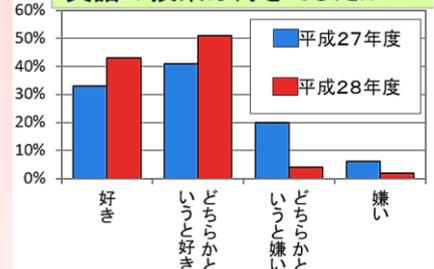
児童の授業振り返りシートから【小学6年生】

- Can を使った文を考えた。質問をして上手に言えた。もう少し難しい言葉を使って質問ができるようになりたい。
- “Here you are?” を習った。使う機会が多いと思うので、繰り返して覚えたい。
- だんだん覚えてきたのでアルファベットを、正しくきれいに書けるようにしたい。

生徒のアンケートから【H27 入学中学 1 年生と H28 入学中学 1 年生の比較】

- 「英語の授業が好き」の割合が増加し、「嫌い」の割合が大幅に減少した。(図のグラフ参照)
- 「好き」の内訳をみると、「会話や授業の分かりやすさ」に増加がみられる。
- 意欲の面で、「英語を話せるようになりたい」が 100% に達した。(前年度 93%)

英語の授業は好きでしたか？



アルファベット (大文字・小文字) の指導を行った達成度の変化

- 小学校でのアルファベットの学習は、全員の生徒が「役に立った」とのアンケートの調査結果が出た。
- 生徒が回答した役に立つ場面として、「書くとき」と同等の割合で「読むとき」の割合が多かった。これは中学校の英語科の教員が中心となって、音の指導を継続して行ってきた成果と考察する。
- 小学校でのアルファベットを書く学習について 94% の児童が「早くない」と回答した。その理由として「早く英語を書けるようになりたい」「中学校の授業に不安がなくなる」といった回答が目立った。

(3) 課題

- 小学校教員の授業力、英語力の向上。
- 小学 1～4 年生における小学 5, 6 年生、中学 1 年生の姿を見据えた指導内容の系統化。

交流研究部の取組

(1) 取組

◎小学6年生と中学1年生「中学校への架け橋」(今年度「架け橋科」)での交流

中1ギャップの解消をねらい、新設した。(小学校15時間扱い 中学校10時間扱い)

総合的な学習の
時間から移行

- ①小学6年生が体験授業や部活動体験などを通して、中学校生活への不安や疑問をまとめる。
- ②まとめた内容について、中学1年生にインタビューをしながら、アドバイスをもらったり、質問をしたりして解決し、中学校生活に対する不安や疑問を減らす。
- ③中学生との交流で解決した内容を小学生同士で交流し合うことで、中学校生活への理解を深め、決意をもつ。



部活動体験



課題ごとにインタビュー



発表・交流

◎小学5年生「教えて先輩」と中学2年生「ようこそ後輩」での交流

小学生の悩みを中学2年生の生徒が聞く活動を通し、小学生は「これからの学校生活に生かすこと」、中学生は小学生を支援することで、「自己有用感を高めること」をねらいとした。



小学校は「総合的な学習の時間」、中学校は「特別活動」で実施

◎その他の交流



中学生による運動会に向けてのボランティア



中学校教員による着衣泳の実施



中学生によるサマースクールの丸つけボランティア

(2) 成果

- ・直接中学生へインタビューしたり、中学校生活について調べたことを聞いてもらったり、中学校教員や生徒と交流する中で、児童の進学への悩みや不安が軽減し、中学校生活への期待や希望をもたせることができた。【表1】
- ・生徒にとっては、自分自身を見つめる良い機会となった。後輩と直に接する中で、先輩としての意識も高まった。
- ・現在の中学1年生は、学習面・生活面共に中学校生活に早く慣れることができ、充実した学校生活を送っている。

「中学校への架け橋」の授業はどうでしたか？

ためになった 42名/42名

理由(複数回答可)

中学校への不安が減った	81%
中学校の学習や生活がよく分かった	55%
学習や授業の体験ができたから	52%
先輩からいろいろ教えてもらった	50%
部活のことがよく分かった	45%

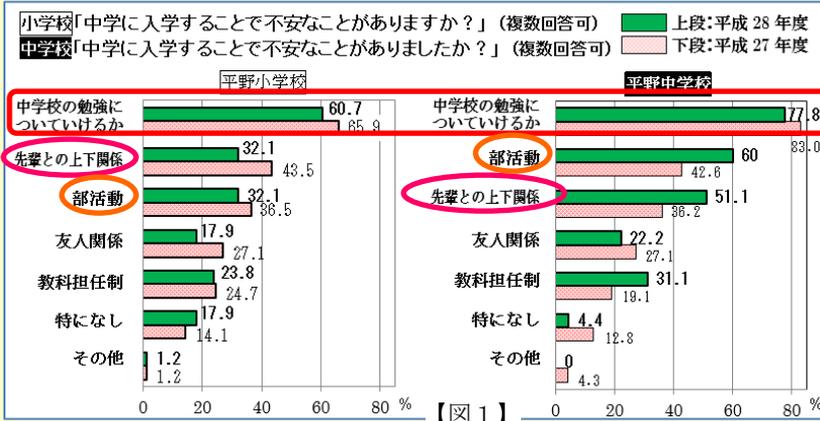
(3) 課題

- ・小学校、中学校での取り組む内容や目標のさらなる明確化。
- ・小中学校間での、打ち合わせや準備の時間の確保。

【表1】

研究の成果

◎平野小中学校の抱える「中1ギャップ」の解消

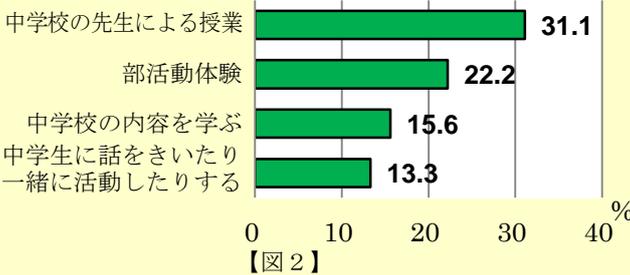


小学5,6年生、中学1年生を対象に行った質問紙調査によると、平野小中学校の児童生徒は、「勉強」「部活」「先輩との関係」に不安を抱えていることが分かった。【図1】

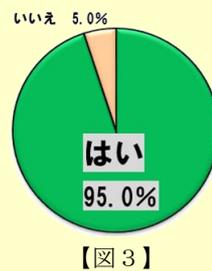
そこで、これらの不安を解消するために、3つの研究部を中心に手立てを講じ、小中一貫教育の取組を進めた。

取組の成果を図るために、今年度、平野中学校へ入学した生徒を対象にアンケートを実施した。【図2】【図3】

中学校入学前の不安を軽くするのに、小学校のときやってみて特によかったことは何ですか。(上位4項目)



中学校のことをいろいろ知ることのできる活動を小学校のときにやってみてよかったですか。



「はい」と回答した主な理由

- ・中学校について詳しく分かり、学校生活にすぐ慣れることができたから。
- ・勉強面など不安だったことがなくなったから。
- ・自分に合った部活を探すことができたから。
- ・先輩達の顔を見たら、「中学校は楽しいんだな」と思ったから。

「いいえ」と回答した主な理由

- ・転入のためやっていないから。

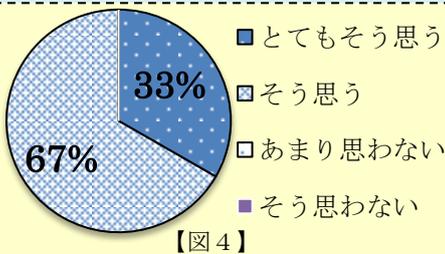
上記の結果から、平野小中一貫教育の取組が、いわゆる「中1ギャップ」とされる中学校生活への不安の解消に一定の成果が得られたと推察する。児童が強い不安を抱いていた数学科や英語科を中心とした乗り入れ授業や「中学校への架け橋」における児童生徒の交流などの取組は、小学6年生にとって非常に有意義なものとなった。

◎9年間のつながりを意識した教職員の意識改革

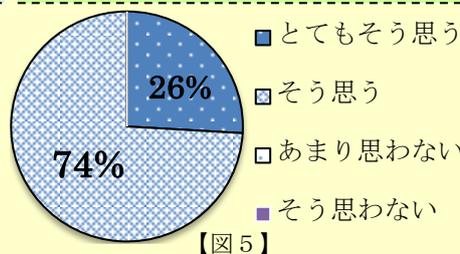
平野小学校・平野中学校の教職員に平野小中一貫教育の取組に関するアンケート調査を行った。特に「中1ギャップ」の解消に関しては、児童生徒の結果とも共通する。数学科や英語科を中心とする教科に関しては、児童生徒の成長の姿から、学力向上にも一定の手ごたえを感じている教職員も多い。【図4】【図5】

また、平野小中一貫教育の大きな成果として、「9年間のつながりを意識した授業改善」への意識が高まったことがあげられる。小中の教職員の交流も活発になった。異校種の授業を参観するだけでなく、協議を深めながら教材研究を進めていくことも増えた。個々の教職員の指導力の向上にもつながっていると推察する。【図6】

小中一貫教育の取組は、「中1ギャップ」の解消など、生徒指導における課題解決に効果的だと思いますか。



小中一貫教育の取組は、学力向上における課題解決に効果的だと思いますか。



異校種の授業を参観したり、異校種の教員と授業を実施したりして、参考になったことはありましたか。



主な理由

- ・学習規律
- ・声掛けや接し方
- ・発問の仕方
- ・授業内容の系統性や授業の進め方

今後の課題

- ・数学科や英語科以外の教科・領域における9年間を見据えた教育課程の編成、改善。
- ・全国及び県の学力学習状況調査の分析のすり合わせと新たな課題解決への手立ての検討。(特に国語の「話す・聞く・書く」)
- ・ゲーム、テレビ、スマホなどの時間の減少へ向けた生活習慣の改善と家庭学習の習慣化に関する手立ての検討。
- ・会議の精選、小中での行事の調整による小中教職員の授業の打合せ等の準備時間の確保。
- ・小中一貫教育を継続するための定期的な合同研修会の設定。